

## 環境教育プランニング演習

### 環境教育活動IVA

#### 環境教育プランニング演習

「環境教育プランニング演習 I」は、自然と環境教育研究室担当教員が行う、分野共通科目の一つです。例年、研究室所属の3年生全員と他研究室の数名が受講します。2012年度の場合、前半の8週間は、生方教員による生物多様性についての講義が行われました。9週目は中間テストで学習内容の定着状況を確認します。10～14週目は、毎週1人ずつの学生が各自で設定したテーマで模擬授業（45分間；その前に授業案の説明を5分間）を行い、そのあと、40分かけてたっぷりと検討会を行います。学生はすべて教育実習を経験した後であることもあって、授業の進め方はスムーズですし、検討会での学生の指摘も実習先での研究授業反省会の際のようにシビアです（笑）。もちろん、担当教員が最後に褒めちぎったり、トドメを刺すことになります。通常、後者でしょう。こうして、学生は鍛えられ、自信をもって学校現場で環境教育を指導できるようになる（ことを教員は願っています）。



「環境教育プランニング演習 I」の模擬授業（左）。

「環境教育活動 I V A」のフィールドワーク（右）。

#### 環境教育活動IVA

「環境教育活動 I V A」は、自然と環境教育研究室に所属する4年生が受講するフィールドワーク系科目です。3年生の際に受講した「環境教育活動 I I I A」は、全員がグループで同一テーマに取り組んで、地域の自然環境と経済・社会・文化とのかかわりを探ったものですが、4年生は一人一人個別のテーマをもち、そのテーマの下での問題解決を目指してフィールドワークに取り組みます。上の写真の学生は、釧路湿原の主な湖沼で水生昆虫の個体密度と水質の関係をテーマにし、「環境教育活動 I V A」の活動の一環として湿原で水生昆虫を採集しているところです（環境省許可）。採集された標本は大学に持ち帰り、指導教員の指導のもと、種まできちんと同定され、データ化されます。10年前および、14年前に同様の方法で同一指導教員のもとで調査し、卒論にまとめたものが残っており、このあとこの学生が作成している卒業論文の中で、24年間の湿原の水生昆虫の変化が明らかになるはずです。